



もにす認定おめでとうございます！



令和6年7月10日に、障害者雇用促進法に基づく「もにす認定企業」として、株式会社 おうず工業 への認定通知書交付式を執り行いました。



長崎労働局長 倉永 圭介 (株)おうず工業 代表取締役 山崎様



(左から) 林田佐世保公共職業安定所長・青野職業安定部長・倉永長崎労働局長・
(株)おうず工業 代表取締役山崎様・(株)おうず工業 取締役山崎様・田中職業対策課長

～ (株)おうず工業様にお話をお伺いしました ～

Q. 最初は、どのような経緯で障害のある方を雇用されたのでしょうか？

特別支援学校からの実習を受け入れていたのがきっかけです。
平成 29 年に、紹介を受け聴覚障害者を雇用しました。

Q. 障害のある方を採用するに当たり、何に重きをおいていますか？

うちに来たいという気持ちです。うちに来たいと思ってくれるのであれば、障害の有る無しに関わらず、受け入れたいと思っています。

Q. 障害者にとって優しい、働きやすい職場環境を作るという点で、工夫している点や意識されている点がありますか。

①周りの従業員が配慮していることについて

現場のスタッフは、障害者の体調など一番早く気付くので、対応は任せています。
また、ルールを細かく決めないことも大事で、この積み重ねで環境が出来てきたのではないかと思います。

②仕事の切り出しや配属先の決め方について

一番最初は全員仕分け作業から始めて、現場責任者が個々に合わせて、その日の体調も見ながら配属先を決めています。



Q. 障害者雇用の割合がかなり高い点について、経緯等があれば教えてください。
また、障害のある方が多いという点で、何か業務運営に当たって意識されていることや心がけていることがあれば、併せて教えてください。

実習をきっかけに1人の子が就職して、その人に憧れて後輩が就職したり、同級生が入ってくれたりして、いつの間にか増えていった感じです。

どの会社でも従業員にはいろいろな個性があります。障害者は特に配慮が必要なだけで、1人1人の個性を受け入れればそんなに難しいことではない。個性を理解して周りのスタッフが支えていくことが一番大事な事だと思います。

Q. 障害者を雇用していることで、企業にとってのプラス面はどのようなことがありますか？

社宅を作って、食事も提供しているなど環境を整備していくうちに、障害の有無に関係なく、みんなしっかり働いてくれるようになったと感じています。

Q. 障害者の方が職場に長く定着されていますが、従業員同士の雰囲気づくりや風通しを良くする工夫（勉強会や交流会などの機会等）があれば、教えてください。

有難いことに、辞めたいなどの言葉をほとんど聞いたことがないんです。

現場の配慮もあるし、社宅も食事もありますから、働きやすいんだと思います。

また、なかぼつさん（障害者就業・生活支援センター）が間に入ってくれるので、障害者にとっても職場にとっても大きな支援になっています。



Q. 雇用の質の向上について、「職業能力開発及び向上に関する措置」が事業主の努力義務として法令に明記（R5.4 施行）されました。株式会社おうず工業様におかれましては、それ以前から取り組んでおられるのではないかとと思いますが、実施されてきたことについてお聞かせください。

障害がある人でも運転免許を持っている人がいるので、本人にやる気があれば、こちらが支援して2t車の免許をとったりしました。

また、聴覚障害の人が玉掛作業をするのに必要な講習を受けるため、講習先に一番前の席などにしてもらう等の配慮により講習を受け、今玉掛作業が出来るようになり、仕事の幅が広がりました。私達も大変嬉しかったです。

Q「教育・福祉から一般就労へ」の大きな流れのなか、設立移行の取り組みにおいて、変化（自社、社会環境等）をお感じになることがありますか。

障害者雇用に興味を持っている企業が増えてきたと思います。

Q. 今回の認定について、

① どのように受け止めておられますか。

以前からの取り組みがやっと認められたと思って嬉しかったです。

支援学校から実習を受け入れたのがきっかけですが、受け入れるまでのハードルは高いが、受け入れてみれば、比較的ハードルは低いと感じました。その経験を多くの企業でも受け入れてもらえたらなと思います。

① どのようにPRし、認定マークをどのように活用したいと考えていますか。

ホームページや名刺に、もにす認定マークを入れたり、環境省のエコアクション21にも盛りこんでいこうと思います。

また、商工会議所の会報にも載せてもらい、もにすを広く伝えていきたいと考えています。

② よろしければ、障害者雇用の取り組みを含め、御社のPRをお願いします。

害者手帳を持っているいないに関わらず、支援が必要な方はたくさんいます。

社会の中でもいろんな人がいるので、皆様にもそういう延長なんだと分かってもらえたら、ハードルは低いのではないかと思います。